

# 春日井ロータリークラブ

クラブテーマ

“未来に向けて 帆を上げよう！”

会 長：川瀬治通  
副 会 長：和田了司  
幹 事：古屋義夫  
会報委員長：青山博徳

事務局：春日井市鳥居松町 5-45  
TEL：0568-81-8498 FAX:0568-82-0265  
E-mail：[ksgj-rc@gaea.ocn.ne.jp](mailto:ksgj-rc@gaea.ocn.ne.jp)  
HP：<http://www.kasugai-rc.jp>

例会場：ホテルプラザ勝川 例会日：金曜日 12:30-13:30



## 本日のプログラム

＜犬山RC・春日井RC合同例会＞

司会 犬山RC SAA

- ・点 鐘 犬山会長 日比野 万喜男君
- ・ROTARY SONG 「我等の生業」  
「四つのテスト」
- ・ビジター紹介 犬山会長 日比野 万喜男君
- ・犬山RC会長挨拶 会長 日比野 万喜男君
- ・春日井RC会長挨拶 会長 川瀬 治通君
- ・食事・歓談
- ・幹事報告 春日井RC幹事 古屋 義夫君  
犬山RC幹事 稲垣 圭次君
- ・各委員会報告
- ・卓話 犬山RC 塚原 義成君
- ・点 鐘 犬山RC会長 日比野 万喜男君

## 先週の記録

幹事所感 幹事 古屋 義夫君

今日は2018-19年度の最終の12回理事会でした。遅刻の理事や無断欠席の理事も若干名お見えになりましたが殆どの理事の方々のご多忙の中、毎回出席をして頂き私はこの1年間を通じて理事の皆様の意識の高さに感激をいたしております。

また私見ではありますが残念なことに近年のロータリークラブの理事会は傾向として少々形骸化し過ぎていて型に囚われ過ぎている様な気がします。

“去年はこうやってやったから…”

という理由でやる事も予算案も同じで更に事業を進展させ有意義にするための方策についてまるで思慮して頂いておられない方が中にはおられます。

また創設50年という伝統がありながら満足な資料が殆どなにもない春日井ロータリークラブにも大きな問題があります。

## ロータリー親睦活動月間

例会 予 定	6月21日(金)	6月28日(金)	7月5日(金)	7月12日(金)
	IDM(夜間例会) ホテルプラザ勝川	休会(定款8-1)	第1回理事会 11:00～ 全員協議会 第1回クラブ協議会 13:40	クラブフォーラム

## 2019年6月11日(火)2408回(6月第2例会)

今後春日井ロータリークラブに必要な事はロータリークラブが決定し実行していただく数々の事業や功績を先ずは正確に後世に残すことかもしれません。そしてその資料を次世代のメンバー達が歴史と伝統を重んじながら熟成と改善を不断に続けることこそが唯一更に素晴らしい春日井ロータリークラブにすることそのものだと思っています。しかし誤解のないように申し上げますが私は決して杞憂しているわけではありません。

もともとポテンシャルの高いロータリアン…私達ロータリアンの考え方や気持ち様で簡単に更に素晴らしい春日井ロータリークラブになる事を確信していますから…

## ◎例会変更のお知らせ

名古屋空港	6月24日(月)
R C	夜間例会の為 キャッスルプラザ
名古屋城北	6月25日(火) 18:30～
R C	夜間例会の為 日本料理まるい
名古屋錦	6月25日(火)
R C	夜間例会の為

## ◎例会休会のお知らせ

名古屋千種RC	6月25日(火) 休会
犬山RC	6月25日(火) 休会
愛知長久手RC	6月25日(火) 休会
岩倉RC	6月25日(火) 休会

## 出席報告

委員長 小柳出 和文君

会員 52名	欠席 23名	出席率 55.8%
先々週の修正出席	欠席 2名	出席率 96.2%

## ニコボックス委員会 委員長 藤川 誠二君

○消防署の皆様、いつもありがとうございます。  
長曾さん、お世話になりました。 川瀬 治通君  
○ハンブルグの世界大会とガバナーナイトに行ってきました。 加藤久仁明君  
○消防の皆様、例会に来ていただきありがとうございます。 近藤 太門君 和田 了司君  
○古屋幹事のご厚意に感謝して。 岡田 義邦君  
○今朝、商工会議所のタイ、ベトナム研修旅行より帰りました。 社本 太郎君  
○6月1日より、社名が(有)から(株)になりました。今後ともご指導ご鞭撻の程お願いいたします。

芝田 貴之君

○ニコの為にいつもより1枚上のせして。

宅間 秀順君

○西村さん、入会おめでとうございます。

足立 治夫君 青山 博徳君 大原 泰昭君  
岡本 博貴君 小川 長君 加藤 茂君  
北 健司君 清水 勲君 朽本 正樹君  
内藤 修久君 長曾 篤志君 成瀬 浩康君  
西尾 隆吏君 速水 敬志君 場々大刀雄君  
藤川 誠二君 古屋 義夫君

○ご協力ありがとうございます

ニコボックス委員会

## 卓話 春日井市消防長 大谷 雅人様

只今、ご紹介いただきました消防本部の大谷です。皆様方には、日頃から、私ども春日井消防の業務に対しまして、格別なご理解とご協力をいただいております。高い席からではございますが、この場をお借りしまして御礼を申し上げます。

ありがとうございます。

また只今は、職員に対しまして感謝状をいただき、光栄な想いで一杯でございます。授与いただきました職員にとっても、春日井市民のためにという使命感を、より一層強くしたと思います。重ねて御礼を申し上げます。本日は、貴重なお時間をいただきましたので、「昨今の消防の現状と取り巻く課題」についてお話をさせていただきます。気楽に聞いていただければ幸いです。どうぞよろしく申し上げます。

まず始めに、昨年、平成30年の火災・救急の状況をお知らせします。市内での火災は87件。その内建物火災は45件と、前年と比較しまして若干の減少となりました。これで平成27年からの4年間、100件を下回る結果となり、市内は比較的落ち着いた状況ですが、火災による損害額は2,600万余り増額した6370万円でした。

全国的にも火災は減少傾向ですが、その要因としては、裸火の使用頻度の減少や自動火災装置の備わった調理器具が普及したこと。また、野焼きなどの規制や、内装建築材の開発などの様々なことが考えられますが、私たちが一番注目しているのは住宅用

火災警報器の設置が進んできたということです。本来、延焼拡大する火災が初期の段階で食い止められ、火災に至らなかった事例が昨年は21件でした。当市の設置率は、県内平均の79.1%を大きく上回る88.8%との統計がでており、市民の皆様の防災に対する意識が高いことを示しています。

しかしながら、心配なのは火災による死者や負傷者には高齢者が多いということです。火災における死者の7割は65歳以上の高齢者であると言われており、残念なことに、今年も1月早々にお一人の方が亡くなっております。

住宅用火災警報器をつけていたとしても、電池の寿命は約10年とされています。電池切れなどの作動不良により効果が発揮されなかった場合なども報告されておりますので、つけているから大丈夫ではなく、是非、点検ボタンや点検ひもを引っ張るなどの機能点検をお願いします。また、余り年月が経過しますと、内部の部品劣化により火災を感知しなくなることも考えられますので、機器の交換を含めたご検討をお勧めします。

私の経験上でお話ししますと、火災が起こった家はあまり片付けができておらず、必ずといっていいほど物があふれている場合が多い。それだけ延焼を助長するものがあふれ返っているということです。また、長年のほこりによるトラッキング現象などにも注意が必要です。小さな火が火災に成長するには、火を大きくする可燃物の存在が不可欠であり、これは一般住宅でも会社、工場でも同じことが言えます。

整理整頓は災害を予防することにつながっていきます。地震の時にも、ただでさえ物が散乱していれば、避難路が絶たれてしまいいいことはありませんので、お帰りになりましたら、必ずご自分の目で確認していただき、対策を講じていただきますようお願いいたします。

一方、救急業務に目を向けてみますと、交通事故は減少したものの、急病搬送の増加が主な原因で、前年を454件上回る過去最高の14,255件を数えました。高齢者の搬送増加はもちろんのこと、夏の時期の熱中症による件数が倍増した結果であると分析しております。春日井市は、県下でも1・2を争う病院までの収容時間が短いという統計がでています。総合病院の収容能力や医師会のバックアップもあり、恵まれた環境であります。1回の救急出動に費やす時間は平均すると53分程度。

9台の救急車を常時運用していますが、同じ時間帯での要請では限界となってしまいます。本当に必要な方への要請に対応できるよう、体の調子がおかしいなと思ったら、無理をせず早めの受診を心がけていただきたいと思います。

さてここまでは、当市の災害状況についてお伝えをしましたが、ここからは、我々消防本部が抱えて

いる昨今の課題についてです。

○まずは、災害が起こったときに何らかの支援が必要な方への対策です。今年9月に、ラグビーW杯が行われます。また、来年には東京オリンピック、パラリンピックが開催され、多くの外国人の方が来日されます。加えて市内で働く外国人労働者の数は右肩上がりの状態を示しており、日本語が理解できない方からの119番要請も増えてくるものと想定しています。そうすると、受信対応する指令員との間で理解するまでの時間がかかり、出動、現場への消防車両の到着が遅れていくという状態になります。このような状況を少しでも軽減するために、日本語での伝達が全くできない外国人からの通報については、365日常駐する通訳センターを介した三者通話を行うことで、相手の伝えたいことを短時間で共有するシステムを今年4月から取り入れました。このシステムは、消防活動で使用している携帯電話も登録できることから、現場で興奮している外国人に対しても有効なアイテムとなり効果を期待しているところです。また、会話に不自由な聴覚、言語機能に障がいのある方からの通報では、スマホなどからの画面上のボタン操作や文字入力によって通報する「Net119システム」を今年10月から稼働させます。現在は「Web119」という春日井独自のシステムを使用しており、市内で登録された方から春日井消防への限定通報であったものを、「Net119システム」を取り入れている消防本部が管轄する地域では、全国どこでも現地の消防本部への通報が可能になるというものです。来年度末までに、総務省消防庁が推奨するこのシステムへの移行を、全国の消防本部が準備を進めていますが、本年度末までには、全国728本部のうち約40%にあたる292本部で導入する予定と聞いています。

もし、導入していない地域で、このシステムを利用して通報した場合は、自分が登録した消防本部へつながり、指令員が該当する地域の消防本部へ連絡し対応していくこととなります。

今後も高齢化社会は益々拍車がかかってまいりますので、このシステムに登録される方も増えてくると想定され、急務を要する対応と考えています。

○次に自然災害に対する対応の強化です。

昨年は、島根県西部や都市部を襲った大阪府北部地震、西日本を中心に全国広範囲にわたって被害を巻き起こした集中豪雨、過去最高の熱中症を引き起こした猛暑、台風21号による暴風被害、そして北海道胆振東部地震における土砂災害と、全国各地で自然災害による多くの犠牲者が発生しました。

自然災害でよく耳にするのは「想定外」というキーワードですが、我々消防職員にとっては、この想定外を「想定範囲内」と受け止めながら日々の業務に取り組んでいく必要に迫られています。

その自然災害の中でも特に心配しているのが震災対

応です。皆さんもご承知のとおり、この地方は南海トラフを起因とした大規模地震の発生が危惧されていますが、幸いなことに本市は被災地となった経験がありません。

被災したときの初動対応に取り組んできた自治体からの助言をいただきながら、いざという時のための計画は策定しているのですが、イメージが薄いので先を見据えた作戦を立てていくことは、中々容易ではないと考えています。計画どおりの優先作業が果たして通用するのか？ 情報は一元化できるのか？ など、今年度はそのあたりの見直しを再検討してまいりたいと思っています。

○最後の課題として、組織の若年化による弊害です。本市ではこの5年間で64名の定年退職者があり、大量退職は収まりを迎えます。

今後の10年間ではわずか27名の退職しかなく、組織内も安定した業務ができるのではないかと思っておりますが、10年前と比較して平均年齢が約6歳下がったの35.6歳になり、300名を超える職員の約半数が採用して10年未満という状況に様変わりしてきました。先ほどもお話したとおり、火災件数が減少している今、現場における経験を積んだ職員も少なくなってきました。先日も火災現場に出向いたときに、昨年採用した職員が活動しているのを見かけましたら、紅潮した顔で何が起きているのかわからないような様子でオドオドとしていました。如何にして、少しでも早く第一線で安心して活動できる職員を育成していけるのかがテーマだと思っております。私が心配するのは、日頃の訓練どおり周囲に気を配りながら活動できればいいのですが、競走馬のように前だけしか見ることができず、アドレナリン満載で突っ走っていると余裕がなく、必ずと言っていいほどケガをするということです。ここぞとばかり、やってやろうと張り切ってしまうのもわからないでもありません。今年の消防長訓示の中でも職員に伝えましたが、私の目標は「出勤した職員が仕事を終え、無事家庭へと戻っていける！」。こんな当たり前なことが、私に与えられた使命であると思っております。今年度も是非達成したいと念願しております。我々消防職員は、市民を守るという消防の使命を全うし、「安心して暮らせるまち春日井」を目指して、もてる力を十分に発揮してまいりたいと思います。私自身も今年度を以って定年退職を迎えますが、このようにたくさんの方々と接することができたことを宝物であると思いつつ、最後まで全力で業務遂行に努めてまいりますので、どうぞよろしくお願ひします。

本日ご参会いただきました皆様方の、益々のご発展とご活躍をご祈念いたしまして、卓話終了とさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。





川瀬会長挨拶



入会挨拶 西村 輝幸君



祝福 会員誕生日



春日井消防職員表彰



祝福 アテンダンス



卓話 春日井市消防長 大谷 雅人様



入会式 西村 輝幸君

